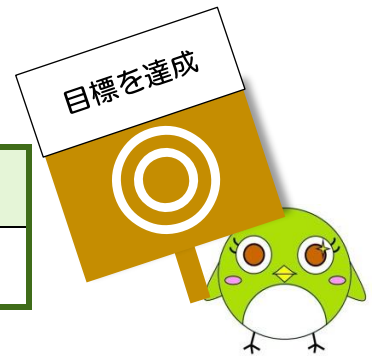


3. 自然環境の保全

目標指標 西山の森林の CO₂吸収量

令和元年度の目標	令和元年度の結果
1,502.00 t-CO ₂ 以上	1,519.51 t-CO ₂



(1) 西山の保全・再生・活用

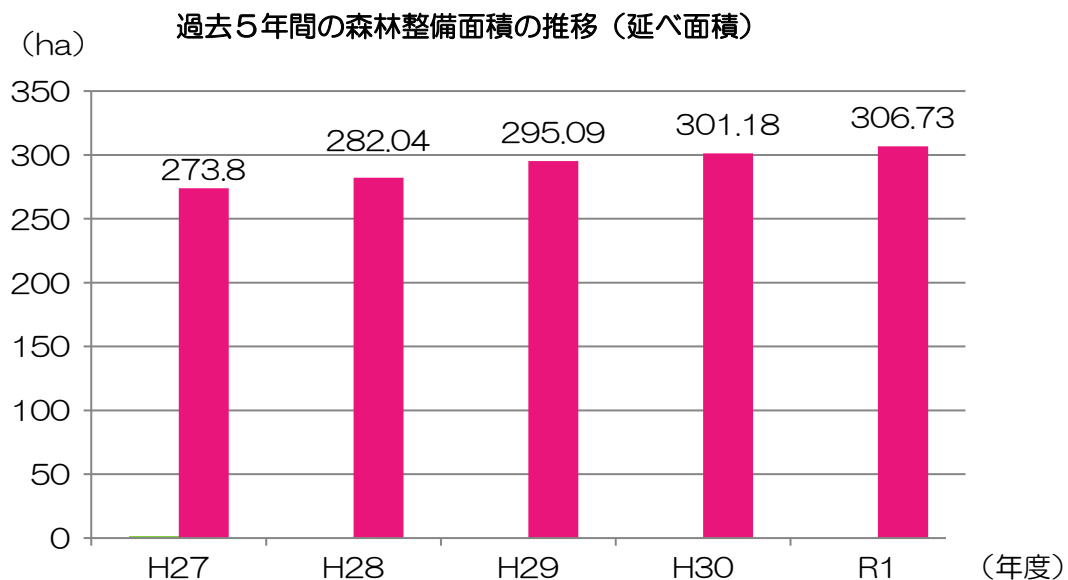
①西山の森林整備

森林整備面積（竹林含む）

令和元年度の目標	令和元年度の結果
延べ 304.00 ha	延べ 306.73 ha



森林整備とは、森が健全に育成し、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。令和元年度は 5.55ha の整備を実施し、延べ 306.73ha となりました。



森林整備面積のうち利用間伐面積

令和元年度の目標	令和元年度の結果
延べ 12.00 h a	延べ 11.95 h a

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成 23 年 11 月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

令和元年度は、市広報板、ベンチ材、ふるさと納税寄附者ネームプレートとして利用しました。

※間伐（かんばつ）…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。



②西山の生態系の保全

モニタリング 1000 里地調査の支援

令和元年度の目標	令和元年度の結果
調査項目 3 項目	調査項目 4 項目

環境省が実施するモニタリングサイト 1000 里地調査に、市が参画する西山森林整備推進協議会が参加しています。この調査は、全国の多数の場所で統一した方法により、各種生物の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして哺乳類、鳥類、チョウ類、植物相の 4 項目の調査を実施しています。鳥類の調査については、調査員の負担などから平成 30 年度から停止していましたが、令和元年度から後任の調査員により再開することができました。



③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

令和元年度の目標	令和元年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と関係課等との活用方法の検討	老朽化した付帯設備等の修繕と運用及び意見交換

令和元年度は、台風等の影響により破損した橋、給水管の修繕を行いました。

また、キャンプ場を自然体験の場として活用する中で、関係各課との意見交換を行いました。



④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

令和元年度の目標	令和元年度の結果
組合員数 104 人	組合員数 102 人



西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を事務局として支援しました。

(2) 竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

令和元年度の目標	令和元年度の結果
延べ 21.5 h a	延べ 21.69 h a



西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げ、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。

そのため、森林の整備とともに竹林の整備も行っています。今後も引き続き、平成 27 年 4 月に改定した西山森林整備構想における最優先課題として竹林整備に取り組んでいきます。

②竹の利活用の調査研究

竹粉・竹チップの累計活用量

令和元年度の目標	令和元年度の結果
累計 84m ³	累計 74.1m ³



多くの竹林を持ち、タケノコを特産物とする乙訓 2 市 1 町（向日市、大山崎町、長岡京市）では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

平成 29 年度は、防草剤として竹チップを活用するなどしましたが、平成 30・令和元年度と利用がありませんでした。放置竹林問題の解決のためには、持続可能な方法で安定的に竹粉・竹チップが活用できる仕組み作りを確立する必要があります。令和元年 10 月には、関係者を集め竹林資源利活用ネットワーク会議を開催し、課題の共有を行いました。今後は課題の解決が可能かどうか検証し、事業化に向けた検討を進めます。

(3) 環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

令和元年度の目標	令和元年度の結果
300 千円／年	300 千円／年

特産品の花菜の^{ほじょう}圃場に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の 29 戸の農家で栽培している花菜は、平成 2 年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成 17 年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

令和元年度の目標	令和元年度の結果
利用者数 188 人 (最大定員)	利用者数 178 人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために 60 歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内 3 か所の農園で、178 人の方が利用されています。利用者の健康増進に向けて、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取り組みの充実

令和元年度の目標	令和元年度の結果
学校給食納品額 972 万円	学校給食納品額 963 万円

長岡京市の全小学校と長岡第二中学校、長岡第三中学校、長岡第四中学校で、地元産の野菜を給食に使用しています。特産のナスやタケノコ、花菜なども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。

令和 2 年度から全小中学校で学校給食が開始され、地元農産物も納品されています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

令和元年度の目標	令和元年度の結果
遊休農地 11.0ha 以下	遊休農地 12.5ha

長岡京市の農地は、令和元年度末現在で 250.8ha あり、そのうち 12.5ha（5.0%）が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。農地の適正な管理やまちなかに多くの農地がある景観保全の観点からも、今後も農地パトロールの実施や、農地銀行制度等の周知を図っていきます。（※農地銀行制度…農家間で農地の貸し借りを円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介を行う。）



（４）水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加者数 280 人	参加者数 281 人

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やポイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。



②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育の実施、小泉川流域での河川清掃 ホタル保護育成の市民啓発

令和元年度の目標	令和元年度の結果
ホタルの生息地域西代橋～菩提寺橋 観賞のタベ、 捕獲防止パトロールの実施	ホタルの生息地域西代橋～菩提寺橋 観賞のタベ、 捕獲防止パトロールの実施

長岡京市西部を南北に流れる小泉川には、ゲンジボタルやハイケボタルが生息しています。特にゲンジボタルは、水がきれいなところでしか生息しないとされており、市内でも数が減少していました。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や卵からの人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでいます。



4. 快適な都市環境づくり

目標指標 住民一人あたりの公園面積

令和元年度の目標	令和元年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.22m ²	住民一人あたりの公園面積 3.30m ²



(1) 身近な緑の保全・創出

① まちなかの緑の創出

まちなかの公共空地等に植栽

令和元年度の目標	令和元年度の結果
まちなかに創出した緑被面積 累計 2,950m ²	まちなかに創出した緑被面積 累計 3,088m ²



緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。

過去5年間の市内緑被面積の推移（累計）



緑の講習会参加数・グリーンカーテンコンテスト等への応募数

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加・応募者数 460 人	参加・応募者数 420 人



住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。

長岡京市では、緑ゆたかなまちづくりを推進するため、(公財)長岡京市緑の協会と連携し、緑の講習会やグリーンカーテンコンテストなどを実施しています。

令和元年度のグリーンカーテンコンテストにおいては、家庭部門(20件)、団体部門(10件)、合計で30件の応募がありました。

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

令和元年度の目標	令和元年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.22m ²	住民一人あたりの公園面積 3.30m ²

※京都府下の平均 7.78m² (平成29年度)

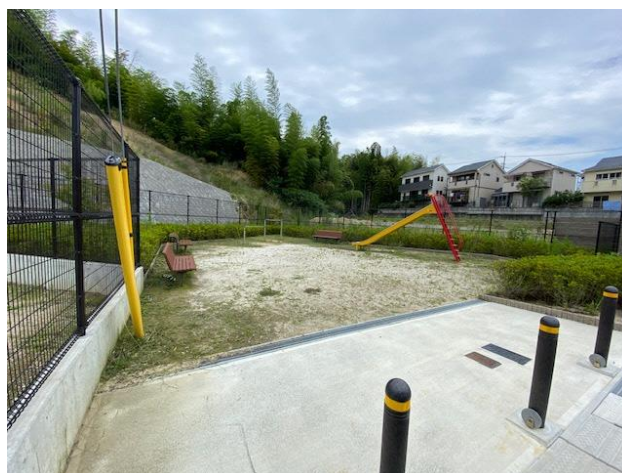


本市は、市域が狭いうえ、約4割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成28年度には2.2haという広大な西代里山公園が完成しました。その他、令和元年度には、小規模ながら複数公園が供用を開始しています。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。



令和元年10月供用開始 天神2丁目南公園



令和2年3月供用開始 下海印寺西山田公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

令和元年度の目標	令和元年度の結果
みどりのサポーター数 105 団体	みどりのサポーター数 100 団体



平成 16 年 10 月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除や植栽などを行うグループを支援する制度です。令和元年度は前年度と同団体数維持の、100 のサポーター団体が市内全域で活動を展開しました。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていきたい。」など様々な思いを持って、令和元年度は 1,314 人のサポーターが活動しました。

(2) 環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装の施工

令和元年度の目標	令和元年度の結果
長岡京駅前線第 3 工区の工事に反映	長岡京駅前線第 3 工区の工事に反映



歩道に雨水がたまりにくくする「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる車道の「遮熱性舗装」は、長岡京駅前線第 3 工区（産業文化会館前までの 111m）の詳細設計に反映しています。令和元年度は地下構造物や照明等の施工を行いました。事業の一部が繰り越されましたので、令和 2 年度には、歩道に透水性平板ブロック舗装等を舗設する予定です。

阪急長岡天神駅周辺整備の検討

令和元年度の目標	令和元年度の結果
区画整理事業基本調査 【区画整理予定地（案）】	区画整理事業基本調査 【区画整理予定地（案）】

令和元年度に阪急長岡天神駅周辺のまちづくりについて、関係住民や地権者との連携のもと土地区画整理事業調査を行い、土地区画整理事業の実施が効果的と考えられる地区の抽出を行いました。

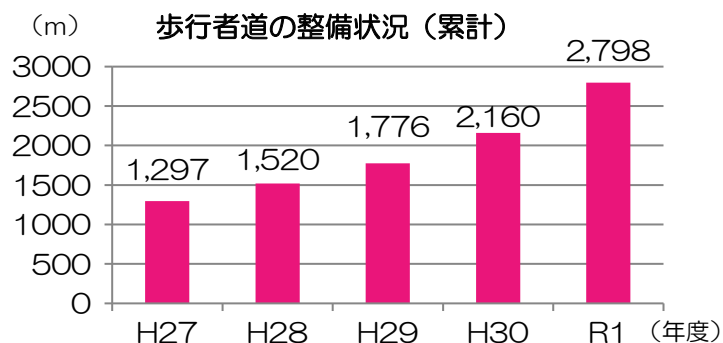
令和 2 年度は、阪急長岡天神駅周辺整備の具体化に向け、区画整理事業調査を継続します。



②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備・電線類地中化の推進

令和元年度の目標	令和元年度の結果
450m	638m



歩行者が歩きやすいまちづくりを形成するため、舗装の復旧と併せて老朽化の激しい側溝の改良による、歩きやすい歩道の確保など、野添1丁目地区、竹の台地区、開田2丁目地区で合計延長525mの整備をしました。

また、歩行者の安全性、快適性を確保するために、長岡2丁目地区、下海印寺北条地区で合計113mの歩道整備をしました。

令和元年度の目標	令和元年度の結果
長岡京駅前線第3工区の工事に反映	長岡京駅前線第3工区の工事に反映

電線類の地中化は、長岡京駅前線第3工区の詳細設計に反映しています。令和元年度は、電線類の地中化や歩道拡幅を進め歩行空間整備を行いました。引き続き工事を実施し、令和2年度の供用開始を目指します。

※電線共同溝工事とは、電線の設置・管理を行う2以上の事業者の電線を収容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱を撤去し、電力線・通信線を地下に収容することにより快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。



③個性ある景観の保全・形成

「長岡京市景観計画」の内容見直し

令和元年度の目標	令和元年度の結果
新景観計画に基づく景観形成ガイドライン改訂の検討	新景観計画に基づく景観形成ガイドライン改訂の検討



平成30年度に、市域を4つの区域、3つの軸、1つの重点地区に区分した新景観計画を策定し、これまで市内一律であった景観形成基準を地域の特性に合わせた基準に見直しました。

令和元年度は、新景観計画に基づく景観形成ガイドラインの改訂の検討を行いました。令和2年度にはガイドライン改訂版として取りまとめる予定です。

(3) 歴史文化資源の保全・活用

①歴史的名所の活用

神足ふれあい町家の活用

令和元年度の目標	令和元年度の結果
入館者数維持 (平成 29 年度現状値: 18,939 人)	16,454 人



神足ふれあい町家は、西国街道沿いにある江戸時代末期の商家です。風情ある町家建築の建物で、平成12年に国登録の有形文化財に指定されました。現在は、和室などをイベントスペースとして貸し出しています。令和元年度入館者数は、昨年より2,929人の減となりました。原因としては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業を縮小したことが挙げられます。

②ふるさと資料館の整備

埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加者数 3,600 人	参加者数 2,453 人



令和元年度は、埋蔵文化財調査センターでの常設展示、特別企画展を開催したほか、発掘調査現地説明会や文化財講演会、調査成果報告会などを開催しました。また、大河ドラマ放映記念のシンポジウムに併せて歴史体験イベントも実施しました。しかし、新型コロナウイルスの影響で施設の閉鎖、イベントの中止が相次ぎ、結果、啓発事業への参加者数は昨年度より1,429人減少しました。

(4) 環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

530運動参加団体への支援

令和元年度の目標	令和元年度の結果
支援継続	支援継続 (78 団体)



530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分たちの問題として考えようという運動です。5月30日(ごみゼロ)にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治会なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋の配布や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。令和元年度は7,188人の参加がありました。

②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
環境美化推進員による 美化パトロール 1回/週 年間60日 夜間パトロール等における ワンワンパトロール1~2回/月	環境美化推進員による 美化パトロール 1回/週 年間60日 夜間パトロール等における ワンワンパトロール2回/月



ポイ捨て防止の指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。回収したごみの量は、たばこ 15,381 本、缶・ビン・ペットボトル 538 本でした。

(5) 適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施・小畑川、小泉川の水質保全

令和元年度の目標	令和元年度の結果
基準超過件数の減少 (平成 29 年度基準値：12 件)	基準超過件数 8 件
小畑川・小泉川 透視度：30 cm以上 BOD：2 mg/ℓ以下 PH：6.5~8.5の維持	小畑川・小泉川 透視度：共に 30 cm以上 BOD：共に 0.5 mg/ℓ未満 PH：共に 7.9



市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。令和元年度の調査では、213 項目中 8 件で基準値を超過しました。毎年 10 件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

令和元年度の目標	令和元年度の結果
広報紙・市ホームページへの 生活環境マナー啓発記事の掲載	広報長岡京 2 回掲載 市ホームページ掲載

広報長岡京に啓発記事を 2 回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。



5. 協働・環境学習・エコアクションの推進



環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

令和元年度の目標	令和元年度の結果
受講者数延べ 115 人	受講者数延べ 88 人

(1) 市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

市民活動サポートセンターの管理運営

令和元年度の目標	令和元年度の結果
市民活動サポートセンター 団体登録数 180 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 66 件	市民活動サポートセンター 団体登録数 169 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 28 件



市民活動サポートセンターは、社会貢献活動を行う市民活動の拠点施設です。市民活動についての相談・アドバイスをはじめ、団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援を行っています。登録団体は減少しましたが、相談件数は微増しており、相談内容も、活動に関する具体的な内容のものが増えてきています。また、サポートセンター自体の認知度をより高めるため、広報の仕方を見直すなどの工夫を行っており、今後も中間支援組織として存在感を発揮できるよう登録することのメリットなどを分かりやすく訴えていきます。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援

令和元年度の目標	令和元年度の結果
ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通した活動紹介	ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通した活動紹介



ステップアップ・チャレンジ会議は省エネ推進チームと環境検定チームの2つが、省エネの啓発や環境意識の高揚に取り組んでいます。今後も、環境フェアなどのイベントを通して、活動の紹介やメンバー募集を行い、事業の推進とともに、新たな担い手を発掘する機会を作り、活動の裾野を広げていきます。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

団体間連携の促進

令和元年度の目標	令和元年度の結果
交流会等の開催	イベントを通じた交流

環境フェアやサポセンフェスティバル等のイベントを通じて団体間の交流を図りました。また、竹林整備に関わる団体等を集め、放置竹林の解決と温暖化対策をテーマにした会議を開催しました。



(2) 環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
受講者数延べ 115 人	受講者数延べ 88 人

例年 3 月頃に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座を実施しています。西山の取り組みについての紹介や竹林に入っの整備作業を体験するもので、実施にあたり、市内の 2 つのボランティア団体にもご協力いただいています。令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。



<教員向け>西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
延べ 164 人	延べ 173 人

小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。平成 24 年度からはじめたオリエンテーションは、今では恒例行事として定着してきました (R1 年度: 20 人)。実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体をつなぎ、環境学習や遠足に活かせるよう、実践的な研修を目指しています。講習内容は、シカやイノシシ等の野生生物の生態についてや、西山の自然観察等についてでした。



②グリーンコンシューマー活動の支援

③環境地域通貨の導入

環境に配慮した運営の事業所への啓発

令和元年度の目標	令和元年度の結果
環境に配慮した運営の事業所への啓発	環境に配慮した運営の事業所への啓発



令和元年度は、広く事業所等に対しクールチョイス等の啓発を行いました。温暖化をはじめ環境問題の解決には、事業者を含めた多様な主体の取り組みが欠かせません。事業者がクールチョイスの取り組みを進めることで、結果として消費者にも、環境に配慮した消費行動をとっていただけるようになると思います。

(3) 環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

令和元年度の目標	令和元年度の結果
各学年指導時間数 小学校 20 時間/学年・年以上 中学校 7 時間/学年・年以上	各学年指導時間数 小学校 17.87 時間/学年・年 中学校 15.88 時間/学年・年

環境学習は、すべての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を合計し、一学年の平均学習時間を割り出しました。また授業時間中だけでなく、休み時間や放課後などの取り組みも充実しています。内容は学校により特色があり、学校農園による栽培活動、雨水タンクの活用、生ごみのたい肥化、田植え、ホタルの孵化活動、太陽光や水力などエネルギー学習、しいたけの菌打ち体験などです。



環境学習会等の開催回数・参加者数

令和元年度の目標	令和元年度の結果
開催回数 10 回 参加者数 310 人	開催回数 7 回 参加者数 195 人

出前講座（3 回）・環境講演会（1 回）・スターウォッチング（夏）等を実施しました。また、親子向けの環境学習を充実させるため、再エネ工作教室に変更しました。実験を見たり、手を使うことで、楽しく環境に対する理解を深めていただけたものと考えます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 つの事業が中止になりました。



再エネ工作教室

放課後子ども教室（環境活動体験）、 市民企画講座（「環境」テーマ分）等の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加者数 200 人/年 講座数 1 件/年	参加者数 149 人/年 講座数 1 件/年

放課後子ども教室は、地域の方々の協力のもと、子ども達に、様々な学びや体験、交流の場を提供しています。令和元年度は、たけのこ堀り体験、小泉川自然観察、いこいの森体験、竹炭焼き体験を行いました。

市民企画講座は、その名のとおり市民が主体となって企画するものであり、令和元年度は、「自然を愛しみ 自然を守ろう」をテーマに 1 回実施されました。



たけのこ堀り体験

②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
4 回・100 人参加	3 回・102 人参加

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう事業です。平成 25 年度から京都府立大学の学生サークルとの連携を始め、ボランティアや大学生の活躍によって活動自体が活気づき、徐々に参加人数も増えてきました。今後も、身近にある西山の魅力を知ってもらうとともに、家族や参加者同士の交流も深められるようなプログラムを企画していきます。



西山ファミリー環境探検隊

西山を活用した環境教育の実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
小学校 10 校	小学校 9 校



春の遠足では、全 10 校のうち 9 の小学校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足の際には、西山で活動するボランティア団体が同行し、児童への説明やアドバイスなどの支援を行っています。

薪ストーブを設置している神足小学校では、拾ってきた柴や薪を用いて、薪ストーブの火入れ式を行っているほか、西山に植樹する苗木を育てるため、ドングリのポット植えを行っています。

③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹あそびなどのイベントの実施

令和元年度の目標	令和元年度の結果
参加者数延べ約 8,600 人／年	参加者数延べ約 6,002 人



令和元年度は、6 月にホタル観賞のタベ（来場者 1,700 人）、8 月には打ち水大作戦（来場者 102 人）、9 月サポセンフェスティバル（来場者 3,000 人）、11 月には環境フェア（来場者 1,200 人）を開催しています。いずれも事業所や環境活動団体の皆さんと一緒に市が主催や協力をして実施しています。また自然環境の大切さや身近な環境への取り組みの必要性を啓発し、周知するためのイベントです。ホタル観賞のタベはあいにくの雨のため、大幅に来場者が減少しました。また、サポセンフェスティバルは平成 30 年度が雨だったため、来場者が少なかったのですが、令和元年度は天気に問題なく、本来の集客がありました。



環境フェア